

地域の運動会を守りたい

清原 泰治

(高知女子大学文化学部教授)

5歳の息子は香美市土佐山田町の保育園の年中組にいる。10月13日の運動会を見て、あまりの子どもの減り方に驚いた。いまは小学生になっている娘が同じ保育園に通っていた3年前と比べると、運動場が閑散として見える。香美市には私立幼稚園もあるので、そちらにたくさん子どもが通っているということなら良いのだが、そんな話は聞いていない。少子化が、すごいスピードで進んでいる。かつて、「過疎化」ということばは中山間地域の現状を表現する用語として使われてきたが、いまでは平野でも確実に「過疎化」が勢力を広げつつある。

おそらく、少子化は小学校にも波及していくだろう。そうすると、小学校の統合がやってくる。小学校がなくなった地域には若者がいなくなり、地域の活力が失われていくというのが、「過疎化」のシナリオである。私の町にも、そういう陰が迫ってきている。

* * * * *

私が土佐山田町に引っ越してきたのは5年前のことだ。私はワクワクしていた。高知市や南国市では参加することができなかった地区運動会に参加できると思っていたからだ。

福岡市で過ごした子どもの頃—それはもう40年近く前のことだが、地区運動会はまぶしく輝く空間だった。トラックの回りには幾重にもゴザが敷かれ、大声援が飛んだ。昼ご飯時には重箱が各家から運ばれてきて、あちこちで宴会が始まった。運動会のメインイベントは地区対抗リレー。「選手」に選ばれることは、子どもにとっては最高の荣誉であり、運動会の当日、近所のおじさんは軽トラの荷台に私たちを乗せて町内を一周してから会場まで運んでくれたものである。他地域の「選手」を抜き去ると、地域のヒーローになった。その日の夜は、父親は地域の家々を回って大酒を呑んだ。あの懐かしい、「地域の華」だった運動会…。

しかし、その期待は、引っ越して数日であきらめに変わった。近所のご婦人の曰く。「運動会かえ。そうやねえ。昔はたいそう盛んにやりよったけど、ここ10年ほどはせんなったねえ。運動会のあとは、お客もあつたねえ。けんど、もうそれもないねえ。」

運動会が全国各地で開かれるようになるのは、1887(明治20)年前後と言われている。地域の運動会が、高知県内の各地に普及していったのは、おそらくは明治30年代であろう。1901(明治34)年5月31日付の土陽新聞に次のような記事がある。

「二十九日、土佐郡鏡村において村内連合運動会を開催した。旗取り競走、提灯競走、二人三脚、仮面探り、帽子とり、土器割りなどを行い、非常に盛会であった。」

11月8日には、安芸郡と長岡郡での運動会の模様が報道されており、安芸郡の運動会では「幾千の見物は終始拍手喝采の声絶ゆる間」がなかったし、長岡郡では1400人あまりの児童と数千人の保護者が集まったと伝えている。

1908(明治41)年8月4日付の土陽新聞から、佐川町での運動会の様子が想像できる。

「佐川同志会は高等小学校で運動会を開催する。昼間は斬新な運動競技数十種と、近町村各学校の責任競争がある。余興として、書画、絵はがきの展覧、盆栽の陳列が

ある。夜間は、提灯行列、花火がある。場内売店では福引きを行い振時計、反物その他数千点の景品をそろえるということである。」

地域の運動会は身体活動の場であるとともに、趣味の発表の場であり、地域住民が親睦を深める場になっていた。運動会は地域のハレの日の行事であり、地域の祭礼としての機能を有する行事になっていたのではないだろうか。

おそらくは、私の町の運動会もこのような発展を遂げてきていたのだろう。古くからこの地域に住んでいる人たちの話によれば、神祭と運動会は、地域の重要な行事になっていたようである。しかし、運動会が開かれなくなっただけでなく、私の町では地域の全員が顔を合わせる場が失われてしまっている。住民の高齢化も進み、町内会の維持さえ危うい状況が迫りつつある。

地域の運動会の機能の一つは、地域住民の「地域の構成員であるという意識」を維持し、高め、次世代に伝えていくことであつたのではないかと思う。

* * * * *

総合型地域スポーツクラブと私をつないだのは、地域の運動会だった。3年前の春、現在の「清流クラブ池川」の設立に関わるきっかけになったのは、「伝統の町民運動会を守りたい」という熱い思いだった。旧池川町では、町民運動会の開催は「行政の仕事」の一つであつた。運動会の準備、運営、片付けにたくさんの行政職員たちが関わっていた。しかし、町村合併後は行政職員の減員が予想されており、町民運動会の運営のための人手不足が懸念されていたのである。運動会を「行政主体」から「住民主体」に変えたい。それが、「清流クラブ池川」の設立に関わった人々の共通の思いだった。

町村合併し、仁淀川町となっただけでも、この運動会は続いている。それは、町民運動会の持っている機能が、いまでも生きているということである。



(旧池川町の町民運動会。この運動会の伝統を守ることは、総合型地域スポーツクラブ設立の目的の一つであつた)

* * * * *

地域の運動会が続いていくこと。多くの人々にとっては、それはあまり重要ではないことのように思えるかもしれない。しかし、長い歴史の中で培われてきた社会的機能に着目すれば、地域行事としての運動会の消失を看過できないのではないだろうか。

地域の運動会は、地域住民のアイデンティティを維持していくうえでなくてはならない存在である。運動会がもう開かれない場所に住めば、そのかけがえのなさがよく分かる。

「地域の小学校と運動会は絶対に失ってはならない。」
高知県の中山間地域を見てきた私が心に刻んでいる教訓である。